

津西ハイタウン自主防災会の取り組みを紹介

～顔の見える防災活動を目指して～

津西ハイタウン自主防災会副会長 朝倉玲子

助け合い住民台帳の作成

津西ハイタウン自主防災会(会員数約650世帯)の特色ある取り組みとして、「助け合い住民台帳」の作成があります。

これは、自治会加入時(平成元年以降)に提出された世帯台帳の情報が古くなったため、自主防災活動での活用も考え、自治会と連携して平成25年度に取り組みを始めたもので、3年ごとに情報を得て内容を更新しています(提出率98.1%)。記載項目は、家族構成や緊急連絡先に加えて、各家庭の「災害時に助けてほしい情報」や、技術・資格、道具の保有状況など「防災に役立つ情報」です。

「災害時に助けてほしい情報」は、津市から提供される避難行動要支援者名簿と合わせ、関係者への公表意思や身体の状態などを毎年4月に確認した上で、自治会へ提供するとともに、全世帯参加型の安否確認訓練時に活用しています。また、「防災に役立つ情報」は、自主防災会に組織する防火、救出・救助、救護などの各チームの支援者としてや、7つのブロックでの防災活動の担い手としての協力要請に活用しています。毎年、班長になったことを機に防災協力者の交流会へ参加していただける人が増えています。

防災研修で自主防災活動を活性化

今では自主防災活動が活発になった津西ハイタウンですが、設立時(平成16年)から数年は自治会による資機材の購入のみで、住民啓発を始めても参加者はなかなか増えませんでした。

そこで、「約10年に1回は回ってくる班長を対象に防災研修をやろう!」との声上がり、昨年で7回目を迎えました。防災研修を始めた当初は、津市危機管理部やみえ防災コーディネーターに頼りっきりでしたが、今では自分たちで企画運営ができるようになりました。また、こういった自主防災会の専門性を高めるため、自治会における大切な防災の機能であると位置付けた上で、自治会役員とは別に自主防災会役員を置き、組織強化も図っています。

いつ起こっても不思議ではない、南海トラフ地震や風水害。命を守り、できるだけ被害を少なくするために、津西ハイタウンでは、全員参加による、顔の見える防災活動を目指して、今後も取り組んでいきます。



防災協力者参加の交流会



資機材を使った搬送訓練



お互いで行う応急手当て訓練

停電時は次のことに注意しましょう

平成29年に発生した北海道胆振東部地震の際、電気の完全復旧には一週間程度かかったといわれています。津市内でも昨年7～9月に相次いで上陸した台風の影響で大規模な停電が発生しました。停電の発生時は次のことに注意し、あらかじめ準備しておきましょう。

注意

- 家を離れる際はブレーカーを落とす。
- 信号が点滅しない可能性があるため、交通事故に気を付ける。



準備

- モバイルバッテリーや電池式の充電器など用意する。
- 懐中電灯、充電非常灯を備え付けておく。



台風第21号により停電した市内の信号機